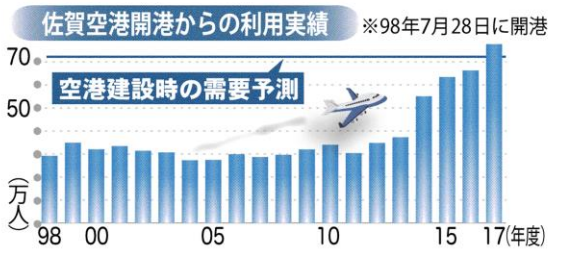
＜新聞記事から考えよう＞180420

佐賀空港 過去最多77万人

建設時需要予測、初の突破



17年度 東京や国際線が好調

佐賀空港（佐賀市川副町）の2017年度の利用者数は77万6614人で、建設時の年間の需要予測だった73万7千人を1998年の開港以来、初めて上回った。東京便の利便性の良さが浸透したことに加え、国際線の増便や新規就航が増加につながり、5年連続で過去最多を更新した。

佐賀県空港課によると、利用者数は東京便と国際線の増便によってほぼ倍増した。

上海便、ソウル便の3路線で過去最多を記録した。東京便は45万8962人で前年より7・0%（2万9915人）増となり、全体の約6割を占めた。上海便は3・4%（1656人）増の4万9801人。ソウル便は10万4919人で、週3往復から週7往復への増便によってほぼ倍増した。

昨年6月に就航した台湾便は3万1957人。成田便は欠航が相次いだが、前年と同程度の13万7782人だった。空港課は「有明海沿岸道路の延伸によるアクセスの向上に加え、増便になった東京便の使いやすさも定着し、利用増につながっている」と分析する。

空港の営業活動を展開する県の副課長級職員ら12人によるセールスチームの会合が19日開かれ、副島良彦副知事は「地道な活動が実績として表れている。さらに飛躍できるように皆さんの営業力を生かしたい」と述べた。会合では本年度の利用者数の目標を80万人以上に設定した。

山口祥義知事は同日の定例会見で「今年は開港20周年を迎える。インバウンドで韓国からの観光客も非常に多く、今後は九州のゲートウェイ空港や（年間利用者数）100万人を目指して頑張っていきたい」と話した。

（山本礼史）

（佐賀新聞 2018.4.20 付）

◎グラフから読み取ろう

○「佐賀空港開港時からの利用実績」をみて、1998 年開港から 2017 年度までの利用実績の推移を説明しよう。

◎記事から読み取ろう

○2017 年度の行き先別の利用者を多い順に一覧表にまとめよう。

	便	利用者数（人）
1		
2		
3		
4		
5		

○まとめてみて、どんなことに気づきましたか。

○建設時の需要予測（　　人）を上回ることができたのはなぜだとされていますか。

◎自分の考えをまとめよう　＊友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○今後利用者を増やすためには便数や行き先を増やす必要があります。
そのためのアイデアを考えてみましょう。